

平成30年度 西都市立妻中学校 外部評価書

評価段階	4 期待以上である (80%以上)	3 ほぼ期待どおりである (50%以上80%未満)	2 ほぼ期待どおりである (20%以上50%未満)	1 改善を要する (20%未満)
------	----------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------

評価指標	実践項目	自己評価	学校の評価コメント及び改善策等	外部評価	外部評価コメント
1 キャリア教育の推進	① 「さいと学」(総合的な学習の時間)を核とした体験活動の推進	3.0	○ キャリア教育を意識し、各種学校行事を計画的に実施することができた。 ○ 高校と連携した礼法指導を通して、生徒の基本的なマナーの改善を図ることができた。今後も継続していきたい。 ○ 福祉体験学習では、講師を招いて4日間実施することで、充実した学習となった。 ○ 職場体験学習を4日間実施することができ、キャリア教育の推進につながる体験活動となった。 ○ 修学旅行が郷土以外の地域に目を向けるよい機会となるとともに、郷土を見つめ直すよい体験活動となった。 ○ 学校でのキャリア教育の取り組みについて、保護者の理解が深まってきた。 ● 諸活動のねらいの中に、キャリア教育で育むべき資質や能力をより明確にし、体系的・系統的な3年間の学習にしていけることが必要である。 ● 職場体験学習・福祉体験学習の充実のために、校区内の受入れ企業や事業所を開拓するとともに、内容充実のための連携を更に図る必要がある。	3.0	職場体験学習を4日間実施するのは、事業所にとっても厳しい面があると思うが、生徒にとってとても良い取組になっていると思う。 高校と連携した礼法指導の取組は、高校入試や各種面接、将来を見通しても良い取組だと思う。
	② 学校行事(体育大会、文化祭、修学旅行、立志式等)を通じた人間関係形成・社会形成能力(他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション能力、チームワーク、リーダーシップなど)の育成	3.0			
2 確かな学力の育成	① みんなが「わかる」「できる」授業の構築	3.0	○ 学力向上のために、年間を通して、全職員で4つのチェックポイントを意識した日常授業の改善に取り組んだ。一人一回の研究授業や教科部会の確実な実施等が「わかる」「できる」授業につながっている。 ○ 毎学期ごとの学習態度徹底週間において、立腰や授業態度など焦点を絞った取組を生徒の学習委員会と一緒に行うことができ、生徒の授業への取組が改善されてきた。 ○ 定期テスト前の計画表作成に工夫を行い、テスト勉強の充実を図ることができた。 ● 「妻中校区9ヵ条」への取り組みの意識がまだまだ高いとは言えない。今後も更なる取り組みへの工夫・改善が必要である。 ● 第2火曜日のノーメディアディの取組は呼びかけてはいるが、大半が実践に結びついていない状況にある。 ● 落ち着いたある態度で学習に取り組めるようになってきている。今後は、「主体的で対話的な深い学び」につながるよう、授業の工夫・改善に努めていきたい。 ● 家庭学習充実のためには、家庭での「みとどけ」を保護者と連携して行うことが必要である。	3.0	各教科から宿題(課題)が出されるが、それに取り組むだけで精一杯、「やらされ感」があり、「主体的に学習に取り組む」といったものではないような気がする。主体的に取り組む家庭学習課題の与え方の工夫・改善が必要。 定期テスト前の計画表作成の工夫、テスト勉強の充実を図る取組が良い。 西都市全体の学力が低いと聞いている。今後の学力向上に期待を込めて厳しめの評価をさせてもらった。
	② 『みんなでこころがけよう妻中校区9ヵ条』の確実な実施	3.0			
	③ 家庭学習の充実と見届けの徹底	2.5			

評価指標		実践項目		自己評価	学校の評価コメント及び改善策等	外部評価	外部評価コメント
3	心身ともにたくましい生徒の育成	①	生活目標「時を守り、場を清め、礼を正す」の推進	3.0	3.0	3.0	市の体育館付近を通っていると、部活動生のあいさつの声に気持ちの良い思いがした。 朝の見守り活動や地域の方から、中学生のあいさつやその表情から学校生活の落ち着き・学校生活の楽しさが伝わってくるとの声が聞こえてくる。
		②	新たな生徒会スローガンの設定とその実現に向けた生徒会活動の推進	3.0			
		③	自分の健康や安全を意識して日常生活を送ることのできる生徒の育成	3.0			
		④	特別な支援の必要な生徒へのきめ細かな指導の推進	3.0			
4	いじめのない安心・安全な学校づくりの推進	①	互いの生命の尊重と、いじめのない学校づくりの推進	3.0	3.0	3.0	定期的なアンケートの実施を行っても、いじめや虐待を含む家庭での問題を把握するのは難しいと感じるが諸問題の把握・未然防止、解決に向けてより一層の充実が必要になる。 適応指導教室等、関係機関との連携を図り不登校生徒の学校復帰に向けた指導の充実が必要である。 今の学校にでは、教職員だけでなく、SC・SSW・SAや関係機関との連携を図ることによって教育活動が行われていることがわかった。
		②	不登校及び不登校傾向にある生徒へのきめ細かな対応	3.0			
		③	生徒の模範となる教師の言動の実施	3.0			